

今さら
聞けない!?

ZEHって 何ですか？

新聞や住宅展示場で目にする「ZEH(ゼッチ)」という言葉。
「ZEH」の家は良い、というけれど一体何が良いのだろう?
そこで、全国の工務店に対してZEHの勉強会を開いている
栄住産業の河野さんと原口さんに話を聞いてみました。



ZEHとは

年間の消費エネルギーよりも、ビルや住宅でつくったエネルギーの量の方が大きい、
もしくはプラスマイナスゼロになる建築物のこと(=ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略)。

簡単に言えば

断熱、省エネ、HEMS、太陽光発電システム等を組み合わせ、
使用電力 < 創電力を実現した住まいがZEH。

一次エネルギー消費量

創エネルギー量

\ ZEHを知るための4つのキーワード /

HEMS

HEMS(ヘムス)とは、「House Energy Management System」の略で、家の中でもうれている電力の状況をモニター確認できたり、遠隔操作でONやOFFにすることや、対象の設備を指定した時間に利用するように予約することができる便利なシステム。HEMSを導入することにより、無駄なエネルギー消費を抑えたり、効率的に設備を利用することが可能になり省エネにつながることから導入が増えている。

太陽光発電

屋根に太陽電池を取り付け、太陽の光で電力を創ることができるシステム。家庭内でつくった電気を使用して、余った電気は電力会社が買い取ってくれる。一度設置すると、発電などは自動的に行われる所以機器のメンテナンスなどもほとんど必要とせず、災害などによる停電時にも太陽光があれば発電し続けるため、導入実績が増えている。晴天、曇天などの気候条件や周辺環境によって発電量が変化する。

家庭用蓄電池

電気を貯めることができ、必要な時に使うことができる蓄電池。産業用に使用されることが多かったが、近年では家庭用蓄電池の普及が進んでいる。太陽光発電システムと併用されることが多く、昼間に発電した電気を蓄電池に貯めておき、太陽光発電で賄えない時間帯の電気をカバーしている。災害時の非常電源としても注目されており、停電時にも時間に関係なく貯めた電気を使うことができる。

高断熱外皮

極力エネルギーを使用しない省エネを実現するためには、空調の使用を節約できる住宅の高断熱化が欠かせない。断熱は設備とは異なり、建築後に性能を高めることができ難いため、建築計画時から高性能な断熱材を選定していくことが重要となる。新しい熱性能値の基準であるUA値が高く、外気温が室内気温に与える影響が少なくなる素材をそれぞれのハウスビルダーが研究し、採用している。

ZEH
Q&A

2人の
プロフェッショナルに
聞いてみました!

Q.2
ZEHの家と今までの家、
何が違うの？

A
家の断熱性や省エネ性能が上がることで、エアコンの効き
が良くなり、その分電気代が安くなるなど、消費者にとって
もメリットが大きい点が最大の魅力です。

Q.3
健康面で良いことって
ありますか？

A
一例ですが、家中の中でも寒い場所ってありますよね。その代
表格が、廊下やトイレ、脱衣所。高齢者に多いヒートショックですが、これは急な温度差に身体がついてゆかずにつ起こる現象。ZEHの家はどの部屋にいても快適な温度を保ってくれるので、身体にやさしい家となっています。

Q.4
新築ではなくリノベーションでも、
ZEHを取り入れることできますか？

A
政府は、建物のリフォームを行うなら省エネに適応したり
リフォームを行なってくださいと通知を出しています。詳細は、
各工務店やハウスメーカーに問い合わせしてくださいね！

Q.1
電気代は、どのくらい
オトクになるの？

A
ひとつのエアコンで一軒家のすべての部屋をカバーできる
と話している工務店もいるぐらい、ZEHってスゴいんです。
例えば今、家族4人暮らしで月2万円近くの電気代がかかっているとしたら、年間で24万円支出していますよね。35年ローンの家なら、24万円×35年=840万円も払うことになります。でもZEHの家ならば、今まで払っていた電気代の一部を他のことに回すことができるんです。今後、電気代が上がる可能性だってあるし、これから家を建てるならZEHの家の方がおトクだって思いませんか？






ZEH
ゼッチ
何ですか？

商標登録 第5938767号:ZIGZAG HOUSE

なぜ今、ゼロエネルギーhausや
ゼロエネルギービルが
注目を集めているのか？

ここ数年、建築業界を中心に急速に広まっている「ZEH」という言葉。実は国が推し進めている政策のひとつで、地球温暖化を防ぐために、日本国内におけるエネルギーの消費量を減らしましょうという提案がベースとなっている。竜巻やスコールのような豪雨など、昔の日本では珍しかった様々な自然災害も、今ではあまり珍しいものではなくなっているが、地球レベルで自然災害が増えている今、未来の子どもたちのためにできることとは何だろう？

そこで「COP21」という2015年にパリで行われた温室効果ガス排出削減策などを協議する会議で、2020年以降の温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」を正式に採択した。この結果を受け、日本国内では、2030年度までに温室効果ガスの削減目標をマイナス26%に設定(2030年度比)。特に1990年代以降、民生部門のうち家庭や業務における消費エネルギーが上昇していることを受け、政府は2030年度に向けて40%減らそうと動き始めた。

さて、ここで本題。では、どうやって家庭や業務における消費エネルギーを減らしたらいいのだろうか。それは、上昇の一途を辿っている一次消費エネルギー(冷房・暖房・給湯・厨房・動力・照明など)を抑えるために、家の断熱性や省エネ性能を上げたり、太陽光発電などでエネルギーをつくることで、年間の一次消費エネルギーの収支をプラスマイナスゼロにしましょうとしているのだ。それが「ゼロエネルギーhaus」、つまりZEHだ！